百人一首を覚えよう！　その8（71～80）

７１．夕されば　門田の稲葉　おとづれて　蘆のまろやに　秋風ぞ吹く
（ゆふされば　かどたのいなば　おとづれて　あしのまろやに　あきかぜぞふく）

（大納言経信（だいなごんつねのぶ）（1016 ～ 1097）　「金葉集」

７２．音に聞く　高師の浜の　あだ波は　かけじや袖の　ぬれもこそすれ
（おとにきく　たかしのはまの　あだなみは　かけじやそでの　ぬれもこそすれ）

（祐子内親王家紀伊（ゆうしないしんのうけのきい）　女流歌人　「金葉集」

７３．高砂の　尾上の桜　咲きにけり　外山の霞　立たずもあらなむ
（たかさごの　をのへのさくら　さきにけり　とやまのかすみ　たたずもあらなむ）

（権中納言匡房（ごんちゅうなごんまさふさ）（1041 ～ 1111）　「後拾遺集」

７４．憂かりける　人を初瀬の　山おろしよ　はげしかれとは　祈らぬものを
（うかりける　ひとをはつせの　やまおろしよ　はげしかれとは　いのらぬものを）

（源俊頼朝臣（みなもとのとしよりあそん）（1055 ～ 1129）「千載集」

７５．契りおきし　させもが露を　命にて　あはれ今年の　秋もいぬめり
（ちぎりおきし　させもがつゆを　いのちにて　あはれことしの　あきもいぬめり

（藤原基俊（ふじわらのもととし）（1060 ～ 1142）　「千載集」

７６．わたの原　漕ぎ出でて見れば　ひさかたの　雲居にまがふ　沖つ白波
（わたのはら　こぎいでてみれば　ひさかたの　くもゐにまがふ　おきつしらなみ

（法性寺入道前関白太政大臣（ほっしょうじのにゅうどうさきのかんぱく
だじょうだいじん）（1097 ～ 1164）　「詞花集」

７７．瀬を早み　岩にせかるる　滝川の　われても末に　逢はむとぞ思ふ
（せをはやみ　いわにせかるる　たきがはの　われてもすゑに　あはむとぞおもふ

（崇徳院（すとくいん）（1119 ～ 1164）　第７５代天皇　「詞花集」

７８．淡路島　かよふ千鳥の　鳴く声に　幾夜寝覚めぬ　須磨の関守
（あはぢしま　かよふちどりの　なくこえに　いくよねざめぬ　すまのせきもり）

（源兼昌（みなもとのかねまさ）　謎の歌人）　「金葉集」

７９．秋風に　たなびく雲の　絶え間より　もれ出づる月の　影のさやけさ
（あきかぜに　たなびくくもの　たえまより　もれいづるつきの　かげのさやけさ）

（左京大夫顕輔（さきょうのだいぶあきすけ）（1090 ～ 1155）　「新古今集」

８０．長からむ　心も知らず　黒髪の　乱れて今朝は　物をこそ思へ
（ながからむ　こころもしらず　くろかみの　みだれてけさは　ものをこそおもへ）

（待賢門院堀河（たいけんもんいんのほりかわ）　女流歌人）　「千載集」